

# 地域の魅力

# 再発見!

各地区二十歳の集い実行委員会からのメッセージ。  
地域の自慢や懐かしいあの思い出など、  
ふるさと自慢が大集合!!

## 県一 県の子を見守るポプラの木

私たちにとってポプラの木は目印であり、シンボルでもあります。

ポプラの木は昭和36年に植えられ、令和5年2月27日に伐採されました。その時の様子を県小学校の胡沢校長先生と植えられた当時小学生だった吉田さんにお話を伺いました。

ポプラの木が伐採されたきっかけは、空洞化が原因でした。平成26年、樹医さんにポプラの木を診ていただいた際に勢いが弱っており台風等で倒木する可能性があると言われていました。その後令和元年に再び診ていただく、7〜8割空洞でいつ倒れてもおかしくない状況だと判断が下り、地域の方とも相談して子どもたちの安全のためにも伐採する方向になりました。伐採が決定すると、小学校に「何で切るんだ」「悲しい」「思い出の木なんだ」といった声が幅広い年齢層や県外で暮らしている方からも届きました。伐採するにあたり、校長講話でポプラの誕生を話したり、ポプラをイメージして各クラスごとに絵はがきや手紙、詩や作文を作成したりし、校内に掲示しました。伐採した際には、「ありがとうの会」というお別れ会を行います。

した。五年生が獅子舞を舞ったり、地域の方がお話をしたりしました。伐採した木は現在、キーホルダーやコースター、ベンチや椅子に変身して活用されています。他にも、校長先生が県小学校の校章の焼印を作ったり、木の間部分部分を150周年の記念碑にしたり、大きな木は地域の方にあげたりしました。今伸びていく新芽は、大事に育てて残していくようです。今までのポプラの木の存在は「ポプラが見守っている、ポプラのもとで育つ」でしたが、これからは「ポプラとともに成長していく、生きていこう」というように子どもたちも育ててほしいと校長先生がおっしゃっていました。

私たちが住む県はこれからもポプラの木とともに真つ直ぐ生き続けることでしょうか。



## 松尾 松尾地区と相撲

私達の松尾小学校での思い出のひとつは相撲です。年に一度の全校相撲大会、運動会は相撲体操でスタート、クラブ活動としても相撲があり、校庭の隅には土俵が整備されています。松尾小といえば相撲だねと言われるほど相撲が盛んでした。現在の小学校と相撲との関わりを知りたいと思ひ、松尾相撲クラブ発足当時から指導されている清水先生からお話を伺いました。

私達が6年生の時に屋根付き土俵が完成しました。屋根を支える4本の柱は松尾財産区有林から切り出されたもので、松尾まちづくり委員会の方々が松尾相撲クラブの子供達から土を突いて土俵を作りあげたそうです。

現在の部員数は15人程で、松尾地区外からも来ています。全校での相撲大会は1年生から4年生までの大会に変化し、運動会プログラム1番だった相撲体操も廃止になったのも事。コロナ禍で相撲を取り巻く状況も随分変化したようですが、そんな中でも試行錯誤しながら相撲クラブを続けていました。

私達は松尾小学校に入学してから、6年間相撲と関わってきました。小学生の頃は勝ち負けの勝負だけだと思いましたが、勝負に限らず挨拶や礼儀を大切にすること、土俵で人と人が向き合って対戦した経験がこれからの人生においても大切な事であると知りました。知らず知らずのうちに、尊い経験をしていた事に驚かされます。

これから社会の一員となる私達、夢を追いかける度に人との出会いも多くなり、困難に直面し悩んだりすることもあるかもしれません。そんな時、松尾小学校で学んだ相撲の心、挨拶や礼儀、人と向き合った経験を思い出し、前を向いて歩んでいきたいと思ひます。



川路 各区の祇園祭を語りまいか！

川路内の各七地区では毎年、祇園祭が行われています。思い出を振りかえると、祭り囃子を奏で山車を引く、夜は公民館で出し物をした、皆で太鼓を叩いた、歌舞伎をみた…など様々。その中にはそれぞれの地区で同じものもその地区特有のものもあります。祇園祭の内容が各地区少しずつ違うのはなぜだろう？ 始まりはいつだろう？ そんな疑問から地域の魅力再発見が始まりました。祇園祭を知るに当たり詳しい方にお話を伺うことにしました。川路に何十年も住み続け、伝統をよく知る橋本國雄さんです。

時は遡り宝暦3年、暴れ天竜とも呼ばれる天竜川は何度も水害をもたらし人々を苦しめていました。

洪水によりなにもかもが失われます。そのひとつが「土地の境界」でした。川路、今田、時又の3地区は度重なる土地争いに決着をつけるため、江戸へ出向き裁判を行います。8年にもわたる裁判や計測の末、川路の言い張る土地が正しいと言いつ渡されました。

そこで勝訴を祝い、そして度重なる水害や疫病から川路を守ってくださるよう始まったのが祇園祭です。津島神社から祠を分けてもらい、祠



がある四区から各地区へ広がりました。

各地区で特色はあるものの共通して、みなで集まり、祭り囃子を奏でる。それは始まりが同じで徐々に各地区へ広がったからだとわかりました。祭りが始まった当時は「見えざる」警沢をすると逆に捉えられかねないため、山車は質素な木造でした。木組みで釘などを使わない伝統的な宮大工によって作られ、当時のものが今もなお引き継がれ

使いつけられています。水害により山車がなくなってしまった地区では、太鼓・獅子舞・竜神の舞など形を変え、各地区今の形になったというわけです。

思い出せばわたしたちが子供の頃、祭り囃子の練習では熟練の方々が若い世代へ熱心に祭り囃子を教えてくださっていました。時代が変わっても昔から絶えることなく伝えられてきた地域の伝統。それは自分達の小さい頃からすくばにあったということ、一同実感しました。自分達が伝統を実感し心動かされたように、この先大人になる子どもたちへ伝えられるように。次はわたしたちが大人として伝統を紡ぐ番です。

竜丘 竜丘地区文化祭に参加して 地域の豊かな文化を知る

竜丘はその美しい自然と豊かな文化で知られる地域です。毎年開催される地域の文化祭は、地元の人々や訪れる観光客にとって大きな楽しみの一つです。この文化祭では、様々なイベントが企画されており、特に注目なのが竜丘から始まる自由画教育を受け継いできた子供たちの描く自由な作品展示です。

竜丘の自由画とは、竜丘小学校図画教師であった木下紫水が国定教科書の研究を通じて模索し、全国各地で実践された児童自由画運動の原点である、山本鼎との交流を通じて長野県の教育界における自由教育思想をもとに1918年から100年以上続く児童自由画教育の実践によりその時代では新しい考え方、文化として全国に広まりました。また1919年には第1回自由画展、1938年には第2回自由画展が開催され、第2回



自由画展は木下紫水によりわが母校竜丘小学校で開かれました。1919年から1940年までに総数

339点もの自由画が飯田市の有形文化財として登録されており、児童自由画教育の具体的な内容を物語るものとして当地域の教育史上貴重な史料となっています。文化祭では、自由画展以外にも多くの催しが行われ、地元の伝統工芸品の展示や販売、体験型のブースでは勾玉つくりや火起こし体験地域の方に竹細工づくりなどが行われました。そして今回二十歳の集い実行委員よりe・sスポーツ体験として太鼓の達人をSwitchで遊んでもらいました。僕らでも操作が難しいゲームを老人から小さな子供まで親子同士、友達同士で競い合ったとして、難しくすぎてゲームにならない時もありましたがみんな自然と笑顔になり文化祭の時間いっばい楽しそうに遊んでもらえました。また、見ていて面白かったりするものも多く小中学生の音楽や人形劇、鈴岡太鼓という発足30年余りの歴史ある演奏を時又の灯笼流し、飯田のりんごなど、飯田市で長く、広く活動されている鈴岡太鼓ならではの和太鼓の美しい演奏を目の前で見聞きして楽しむことができました。



上村・南信濃 地元のために私たちが今できること

私たち遠山地区は、二十歳の集いを機に「地元から離れて進学・就職して暮らす私たちに出来ることはなにか」をテーマとして地域学習をしました。

活動のスタートとして、遠山地区を代表とするイベントである御射山祭りに参加をしました。自然あふれる遠山谷に花火の音が響き渡り、頭上に輝く光景は私たちを魅了させました。その一方で、数年前まで賑わっていた通りも、いまではさみしくなっていました。祭りを出していた神輿の数も減少し、活気が少なく感じました。

実際に祭りの運営をしている方にお話を聞き進める中で、昨年まで実行委員長を務めていた方が亡くなり、お祭りの詳細についてその方以外に詳しく知っている方がいなかったため、お祭りの存続すら危ぶまれていたという背景を知りました。そのような中、新実行委員長は、住民の方の熱い思いを知って開催することを決意したそうです。また今後も、開催を期待してくれている人が多いから続けていきたいという気持ちもあり、そのためにも組織を作り上げて長く



続けていきたいというお話をお聞きしました。私たちは今まで参加してきたお祭りが、地元にとつてどれほど大切なものかを実感しました。インタビューの最後には、これからの若者に「地域行事とどう関わっていくかについては是非話してほしい」というお言葉をいただきました。

インタビューを終えて、これから私たちが地域のために出来ることについて話し合いました。「今後も御射山祭りは続いてほしい」「活気のある遠山郷であってほしい」という意見が出ました。そのためには遠山に戻って参加したり、祭りに参加出来ずとも、関わる方法を考えていきたいと思いました。

最後に二十歳の集いのこの機会に、改めて地元の良さを知る活動ができたことをうれしく思います。高齢化が進む遠山地区のために、地元から離れて進学・就職して暮らす私たちがもっと地域について知る必要があると考えました。さらにそれを発信していくことで、この大好きな遠山地区に若者が集うきっかけになればうれしいです。

千代 千代の食材を使ってBBQ!

10月19日(土)に地域の食材を使ったBBQをしました。県外からも人が訪れる、野池親水公園キャンプ場で行う予定でしたが、あいにくの雨となつてしまい、屋内でのBBQとなりました。

食材は「よこね米」、「千代ねぎ」、「千代幻豚」、「純米酒 よこね」を使用しました。どの食材もとても美味しかったです。このような素晴らしい食材がある千代地区を誇らしく思うと同時に、普段苦勞して作ってくださっている地域の農家の方への感謝を忘れないようにしたいと思います。

会場の準備から食材の調達など、みんなで協力し、楽しい会とすることができました。参加者からは「久しぶりにみんなと話せましたし千代幻豚も美味しかった。」「上京してから地元の食材からしばらく離れていましたが、その美味しさを再発見するいい機会となりました。」「地元こんなに美味しい食材があることを知り、地域の魅力を改めて感じる事が出来ました。」「との感想がありました。地元に残っている人だけでなく、県外に進学した人達も参加してくれたのがとても嬉しかったです。11月14日(木)に木下公民館長さんに千代地区についてインタビューしました。はじめに千代地区の魅力につ

いてお聞きしました。小学校の授業で野菜を育てる際に地域の方が苗をくださるなど子供のためにとの思いが強い人が多いとの事でした。万古溪谷をはじめ自然が豊かという魅力もあります。ツアーに参加するなどして実際に自然を味わって欲しいとの事でした。

次に若い世代に伝えたいことをお聞きしたところ「無理はしないで欲しいが、日々勉強して今日の自分より明日の自分が成長できるように頑張りたい」と、二十歳という節目を迎える私達に、励みとなる温かい言葉を頂きました。

今回のイベントを通して千代地区の魅力を改めて実感できました。



## 伊賀良 私たちの伊賀良

私たちは、実行委員で小中学校時代の思い出話をしている中で、「二十歳になるにあたってもう一度伊賀良を知りたい！懐かしいところに行ってみたい！」という話になり、地域の方から伊賀良を学んだり伊賀良小学校と一緒に見学に行くことになりました。

見学当日、伊賀良小学校に入らせてもらうと、あの頃楽しく遊んでいた遊具は立ったまま手が届いたり、授業で使っていた椅子や机がとても小さく感じたりしたことで、自分自身の成長を感じました。また、私たちが通ったあの頃と変わっていない部分は懐かしいと感じた反面、この数年で大きく変わってしまった部分もあり、少し寂しく感じました。小学校という思い出の場所を改めてじっくり見学することで、過去を振り返り、自分たちが成長してきたことを実感する機会となりました。

その後、公民館で伊賀良地区の様々な事を詳しく知っている大



瀬木在住の北林省治さんに、「伊賀良を学ぼう」という地域の方が作られた冊子を活用しながらお話をお聞きしました。北林さんには、伊賀良の名物とも言えるたくさんの桜の木や、それらが植えられている神社の話、小学校に飾られている鈴木芙蓉さん、佐竹達平さんの絵の話、それから当時伊賀良に住んでいた方々が苦労して作られた井水などについても教えていただきました。私たちがこれまで生まれ育った伊賀良について、知らなかったことも詳しく教えていただき、伊賀良の良さや歴史の奥深さを再認識する良い機会になりました。

そんな素晴らしい伊賀良という地区で、一緒に学んだ仲間たちとやる二十歳の集いは、人生で1度しかない大きなイベントです。実行委員としても1人の参加者としても、悔いの残らないよう全力で楽しんで、良い会にできたら良いと思っています。

## 山本 今の山本の魅力

私たちが地域の魅力と懐かしさの想い出をお話し合う中で特に取り上げたいと思ったものは、遠足で行った城山、地域学習で体験した大塚太鼓そして現在の山本小学校の3つです。まず、城山探索では頂上まで車で行きましたが、道のりは決して短くなく、勾配もそこそこある道を小学生で歩いたことを思うと驚きを隠せませんでした。頂上からは山本全体を一望でき、季節によって様々な情景の山本を見ることのできる情趣ある場所だと改めて感じました。

次に、大塚太鼓の体験では簡単だけれど少し複雑な「三宅島遣り太鼓」という曲を教えてくださいました。最初の十分くらいは、バチの持ち方も太鼓の打ち方にも慣れておらず、つまく演奏することができなかつたけれど、徐々に慣れてくると楽譜を見なくても打てるようになり、みんなと合わせて演奏することがとても楽しく感じました。一時間かけて一曲完成させることができたのですが、練習の途中、何度も間違えてしまったり、リズムがずれてしまったり、体験が終わった後に腕が筋肉痛になっていることにも気が付き、一見ただ打っているだけに見える太鼓の演奏も筋力や体力、集中力も必要な楽器なんだと知ることができました。日本の伝統芸能の一つである和

太鼓を皆さんも是非、体験してみたいかがでしょうか？

最後に、私たちは今の山本小学校を知るために校内を見学させていただきました。昇降口から廊下、各教室を一つずつ巡り、「こんなことしたね」「あんなものもあったね」と想い出を語りながら歩いていくと、懐かしい雰囲気の中に私たちが通っていた頃には無かったようなものや新しく変わっていた場所もあり、子ども達がより快適に学校生活を送れるよう整備されているんだと思いきや心しました。

あの頃の思い出の地を巡ると様々なものが小さく狭く感じ、自分たちの成長をしみじみと実感しました。





### 三穂 三穂の魅力を子どもたちに伝えたい

今回、私たちは三穂の魅力を再発見するために「三穂ふれあい夏祭り」と「ふるさとめぐり三穂」に参加しました。「三穂ふれあい夏祭り」では、多くの同級生が夏休みで帰省しており、相談し合っていてクレープの屋台を出店しました。当日は多くの子どもたちが、私たちの作ったクレープで喜んでくれて嬉しかったです。



また、昔お世話になった大人の皆さんも多く訪れてもらえて久しぶりに話ができ懐かしく感じました。気心の知れた友人との久しぶりの共同作業はとても楽しく、あっといふ間の時間でした。人数が少ないからこそチームワークの良さは今でも変わっておらず、最高のメンバーだと再確認できました。

さて、自分たちが地域の魅力を伝える側になれたことを実感しました。二つの活動を通じて、三穂地区の皆さんは温かくて親しみやすい方々だと改めて感じて、魅力的な地域だと思えました。他の地域の皆さんに誇れる最高のふるさとです。このふるさとである三穂の魅力を私たちが絶やさぬように伝えていくことが大切さを学びました。

「ふるさとめぐり三穂」は、小学生が三穂の名所を歩き、地域の方から説明してもらおう行事ですが、今回三穂の魅力を再度学びなおすために参加することにしました。久しぶりに参加するのなら、ただ歩くのではなく私たちも名所の説明をしようと思ひ、下瀬コースの「下瀬原」と「ほてい竹の林」を小学生に説明さ

### 龍江 アップルキッズ

私たちが通っていた龍江小学校には、アップルキッズの森という学校くらげ園があります。平成12年につます。そして、その活動は現在も続いています。当時の私たちは、小学校にりんご園があることが当たり前で、特別なこととは感じてはいませんでした。

今回は実際にアップルキッズの森に行き、りんご園を管理している鳴海和彦さんからお話を伺いました。お話を伺うまでは、なぜ龍江小学校にりんご園があるのか？誰が管理をしてくれているのか？知らないことが多くありました。



に手が届かなかったのですが20歳になって手を伸ばそうとするとすべりんごに手が届きました。自分が大きくなったことを実感し、とても感動しました。りんごを採るのが楽しく、特に姉妹学級に分かれて自分より小さな子をお世話するのが楽しかった印象があります。今回も特別に収穫させていただき、当時の楽しかった思い出がよみがえりました。

改めて地域の方からお話を聞くと、私たちのために動いて下さっていた地域の方々がたくさんいらっしゃったことがわかりました。日常的な草刈りや消毒など、りんご園が綺麗なことは当たり前でしたが、裏では支えてくださる方がいるからこそ、あの時の楽しい思い出ができたのだということがわかりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

在校生がこれから先も龍江小学校を残していくために活動しています。修学旅行の際に新宿駅にてりんご園で採れたりんごで作ったジュースを販売し、県外の方にも龍江地区の魅力を知ってもらおう活動をしていることを聞きました。今の小学生たちもりんご園の活動を楽しんでいる様子を聞き、嬉しかったです。

これからは私たちが支える側になっていくので、今まで支えてくれた地域の方を見習っていききたいです。

橋北・橋南・東野 ソフトボール大会で地域の人がインタビューしてみた

私たちは毎年開催されている橋南地区のソフトボール大会に参加してきました。会場は、私たちの母校である飯田東中学校のグラウンドでした。そこでソフトボールを通じて地域の人と交流してきました。

私たちは初めて参加しましたが、地域の皆さんは温かく迎え入れてくださり、若い世代が参加し、出場チームが増えたことに喜んでくださいました。

まず、試合に参加する為にメンバーを集めました。しかし、地元に残っている人が限られていて集めることに苦労しました。ですが、後輩や地元の先輩などにも声をかけてなんとか集めることができました。これをきっかけに久しぶりに連絡を



とった人もいて、懐かしい気持ちになりました。当日がとても待ち遠しくなりました。

そしていざ当日!!久しぶりに再会した同級生達と挨拶を交わし、中学生時代の話などで盛り上がることで、事前練習もなくぶっつけ本番で少し不安でしたが、チームの士気も高めることができました。その結果、私たちは優勝することが出来ました。

この行事を通して、地域の人もも交流を深めることができました。

小学生の頃、放課後ことも教室や児童クラブでお世話になった菅沼さんは、「懐かしい子が来てくれてちよつと話が出来て良かった。20歳の子もこちらを覚えていてくれて嬉しかった」と言ってくれました。

他にも体育委員長の方は、「若い人が地域の行事に来て盛り上げてくれるのは嬉しい、是非これからも盛り上げて欲しい」と言ってくれました。

私たちはこれまで、このような行事に参加した事がなく初めての体験でしたが、このような言葉をお聞きして、嬉しい気持ちとともにこれからはいろんな行事に参加していきたい気持ちが高まりました。地域の方々に感謝したいと思います。

飯田の人はあったかい!!!

羽場・丸山 あったかい地域(我が家)が待っている♪

私たちは11月24日に行われた丸山地区ポッチャ大会に参加してきました。この大会の目的は、「ポッチャを通して地区内の交流を深め、健康づくりや体力の増進に寄与する」です。テレビなどで見たことしかなく、最初はルールも分かりませんでした。

今回の大会は30名ほどの方が参加し、小さいお子さんから、年配の方まで、幅広い世代の方が参加をしていて、和気あいあいとポッチャを楽しんでいました。私も、その中に混ぜていただき、いろんな方と交流しました。



最初は「ジャックボール」という目標となる球に近づくこともできませんでした。点数も取れませんでした。ですが、試合を重ねていくごとに勝つための戦法だったり、上手い人の投げ方を見たりと段々とコツを掴んできました。初大会初優勝を狙っていましたが、結果は3位でした。ポッチャと聞くとパラリンピックでのイメージが強いですが、実際にやってみると、年齢、性別、障がいあるなしに関わらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツだなと感じました。結果が良かった

チームも悪かったチームも同じ地区の方で談笑している姿を見て、心暖かく居心地の良い場所だと感じました。子供の頃は、家族がいつもそばに居て同じ気持ちになつていたので、もしもありません。大人になると家族から離れる時間が多くなり、1人で行動がしたくなったり、家族と過ごす時間よりも友達やパートナーと過ごす時間の方が多くなります。私たちも一瞬子供の頃に戻つたような気持ちになつたのは、地域の行事に参加していた皆さんが、家族のような暖かさに包まれていたからではないかと思えます。ポッチャ大会だけではなく、羽場公民館・丸山公民館で行われる文化祭、スポーツ祭、それぞれの神社のお祭りなども和気あいあいと羽場・丸山地区に在住する方の心の暖かさがあり、全ての方が楽しめるのではないのでしょうか。

若者が地元から離れていってしまうのが課題だと、よく耳にすることがありますが、地元を離れて活躍している友人達、地元に残って活躍している友人達も心で体感したあの暖かさを1秒でも思い出してくれたいです。



上郷 ぶなしめじ発祥の地・上郷に学ぶ

私たちは、小学生の頃に地域学習で訪れたぶなしめじ農家さんに約10年ぶりにお話をお聞きしました。ぶなしめじは長野県飯田市上郷が発祥の地というところで、改めて学んでみたいと思いました。

今回、ぶなしめじ農家の竹内さんにお話を伺い、農場の様子を見学させて頂く中で、栽培管理方法、歴史について学びました。私たちが小学生の頃は、上郷のぶなしめじ農家は90軒ほどでしたが、現在は6、7軒程と減少していました。その背景には、農家の高齢化に伴う後継者問題があるとお聞きしました。今の若い人たちがそついった地域の問題に目を向け、興味を持つことが大切だと感じました。地域のぶなしめじ農家さんが減少している中で、竹内さんは現在も農業と向き合っています。ぶなしめじを始めたきっかけは、もともと実家でえのきを育てており、栽培環境による負担が大きいえのきから、ぶなしめじに変えて育て始めたとお聞きしました。

苦労することとして、「きのこは生き物だから、同じように育てていても均一のものではない」とことや「わずかな環境の変化が原因で雑菌の増殖につながってしまう」ことから、収入の減少に繋がってしまつたとお話ししてくださいました。また、



ぶなしめじのもととなる菌は何年も使用しているうちに変化し、正常にはたらく温度や湿度などの範囲が狭まってしまつたため、その菌に合わせた環境を整えることが大切であると学びました。

今回の地域学習を通して、農家の方々の努力によって、私たちのところへ美味しい農産物が届けられていることを実感しました。

二十歳を迎えた今だからこそ、農家さんだけでなく、これまで私たちに支えてくださった方々へ感謝し、恩返ししていく事が必要であると感じました。これからも、私たちが生まれ育つた地域に興味を持ち、地域に貢献していきたいと思っています。

座光寺 二十歳になって見つけた座光寺の魅力

座光寺地域には「麻績の里舞台桜」という樹齢350年ほどにもなる有名な桜があります。私は、小学校6年間舞台桜へ観光に来た方々に桜の説明をする「桜ガイド」をしていた経験があり、小学生のころから関わりがある「麻績の里舞台桜」や麻績の里の現在について学びました。

地域の振興活動をしている、「麻績の里振興委員会」の筒井委員長にお話を聞きました。

麻績の里振興委員会では、桜の管理や枝の剪定などの手入れ、その周辺の遊歩道の整備、舞台校舎でのイベントや利活用などのおもてなし事業など様々な活動を60〜90歳までの方々でされているそうです。

舞台桜が台風の影響などで根が弱くなつてきているため根を増やそうと活動されていたり、舞台桜の孫になる舞台桜2世の手入れも行っているそうです。地域の方々が舞台桜を大切に守り続けているのを感じました。

また、振興委員会の方々が整備を行っている遊歩道を実際に筒井委員長と歩いてみました。遊歩道の脇には彼岸花が植えられていたり、夜も歩きやすいよう街灯があったりきれいに整備されていました。小学生のころ何気なく歩いてきた遊歩道を二十歳になって歩いてみて、地域の



ために活動してくださっている方のおかげでこの環境が維持されているのだと気づきました。

そして、今でも桜まつりの際に、座光寺小学校の生徒が「桜ガイド」をやっているそうです。桜の魅力を伝える若い世代が私が小学生のころから今もなお続いていることに感動しました。現在は、小学生だけでなく中学や大学へあがっても「桜ガイド」に関わる子どももいるそうです。

この二十歳の活動を通して自分の育つた座光寺地域のために、たくさんの方が携わっていることを知り、改めて温かく素敵な地域だなと感じました。更にこの座光寺や「麻績の里舞台桜」などの魅力が残るように、広まるように若い世代でも発信していきたいと思っています。

## 上久堅 繫がつていくモノ〜母校を訪れて〜

私達は昨年10月26日に、母校である上久堅小学校を訪れました。学校散策をして思い出を振り返ると共に、花壇の環境整備をお手伝いさせていただきました。

まずは校内散策を行い、教室にある椅子に座ったり、体育館で走ったり、授業の様子を再現してみたり、沢山の思い出を振り返りました。来年少久堅小学校は、「創立百五十年」という大きな節目を迎えるという事で、記念にメッセージを書かせていただきました。在学していた当時は意識していませんでしたが、とても長い、歴史ある学校だと実感しました。

その後、学校花壇・環境整備の一环として、春に向けた、チューリップの球根植え付けを行いました。私達の在学当時も行われていた季節行事だったので、とても懐かしかったです。始めは球根同士のバランスで悩みましたが、配置が決まると、黙々と作業に取り組んでいました。自分の作業が終わった人から、作業が残っている人を手伝いに行くという姿は、小学校の時から変わらず、協力して行う作業は楽しかったです。作業後、メダカを飼っていた池や学校周辺を散策しました。メダカ池は、水が抜かれ、木でつくられた橋や小屋だけが残っていました。寂し

く感じましたが、雨や害虫が多い自然の中で管理を続ける事は大変だと、成長した今だからこそ分かる事でもありました。

今回の訪問から、「繫がり」を強く感じました。花壇作業もその一つですが、張り紙や児童会活動など、私達のいた頃から変わらない、見覚えのあるモノが多く見られました。大切にしていたモノや行事が、今でも続いている事はとても嬉しかったです。

本来、休日の学校訪問は許可されませんが、土曜参観終了後の午後であればと許可をいただき、地域学習として小学校を訪れることができました。学校関係者の皆様を始めとした、本企画に携わってくださった方々へ、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。



## 下久堅 地域の魅力再発見

私たちの下久堅地区では、紙すき体験と下久堅小学校の見学を行いました。

下久堅小学校では1年生から6年生の間に、和紙の原材料であるトコロアオイの栽培から収穫までの行程を実際に体験し、和紙についての学習をしています。6年生では自分たちの手で漉いた和紙を卒業証書に使用し、世界で一つだけの大切な卒業証書を作ることができます。

和紙は実際に手で破ろうとしても破れないため、卒業証書は今でも当時の綺麗な状態で保管することができます。素敵な思い出として残っています。



私たちの下久堅地区では、紙すき体験と下久堅小学校の見学を行いました。下久堅小学校では1年生から6年生の間に、和紙の原材料であるトコロアオイの栽培から収穫までの行程を実際に体験し、和紙についての学習をしています。6年生では自分たちの手で漉いた和紙を卒業証書に使用し、世界で一つだけの大切な卒業証書を作ることができます。

ひさかた和紙の文化に改めて触れて、伝統文化を継承していかねければいけないと思いました。

後半は小学校の見学を行いました。普段は入ることができないので貴重な体験ができました。小学生の頃使っていた下駄箱や机、椅子が今でもとても小さく感じ、懐かしくなる

と共に成長を感じました。みんなが印象に残っている3つの心「ねばり玉・はっけん玉・しんせつ玉」を見て、当時は清掃時に「3つの玉を磨く清掃」に取り組んでいましたが、今後の人生にも3つの玉を大切にしていきたいと思いました。

今回の地域学習を通して、簡単な言葉に聞こえますが「やっぱり下久堅っていい所だなあ」とみんな再確認することができました。